

様式1(主な取組)

活動指標名	水源地域市町村支援数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	6市町村	6市町村	6市町村	6市町村	6市町村	6市町村	100.0%	14,630	順調	北部水源地域6市町村が、水源地域特有の行政需要への対応として実施している水源かん養の機能維持を目的とした施策、やんばるの環境保全対策、水源地域の振興策等、各分野の事業に対して、県が一部助成を行った。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 北部水源地域市町村(国頭村、大宜味村、東村、名護市、宜野座村、金武町)が実施する水源かん養の機能維持を目的とした施策、やんばるの環境保全対策、水源地域の振興策等への取り組みに対し、助成を行った。 これらの取り組みに対し県が一部助成を行うことで、沖縄本島の水の安定確保及び水質保全を図ることができた。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
・引き続き水源かん養機能維持のための取り組みを支援するとともに、やんばるの環境保全対策や水源地域の振興策に対しても支援を行う。						令和元年度より、事業を拡充したことで、水源かん養機能維持の取組だけでなく、やんばるの環境保全対策、水源地域の振興について支援を行った。その結果、やんばるの環境保全対策においては、やんばるの森の自然環境が整えられ、世界自然遺産登録後の保全にも資するものとなった。				

様式1(主な取組)



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・平成28年度より、水源かん養機能維持の取り組みに支援を行っているものの、将来にわたり、健全な水循環を維持するためには、長期的なスパンで当該取り組みを行う必要がある。

○外部環境の変化

・沖縄本島の水源は、主に北部のダム、河川水となっているが、水源地となっている北部地域は、人口減少による過疎化や高齢化が進行しており、十分な手入れが行われていない森林もあることから、水源地域の取り組みに依存した形での森林保全が難しくなりつつあり、将来的には、森林等の荒廃に伴う水源涵養機能の低下が懸念される。

・令和3年7月の世界自然遺産登録により、保全活動の関心がより一層高まってくる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・将来にわたり、健全な水循環を維持するためには、森林、河川等における水の貯留・涵養機能の維持を図る水源かん養機能の確保に加え、やんばるの環境保全対策や水源地域の振興に関する取り組みを末永く継続する必要がある。



4 取組の改善案 (Action)

・引き続き水源かん養機能維持のための取り組みを支援するとともに、やんばるの環境保全対策や水源地域の振興策に対しても支援を継続していく必要がある。